

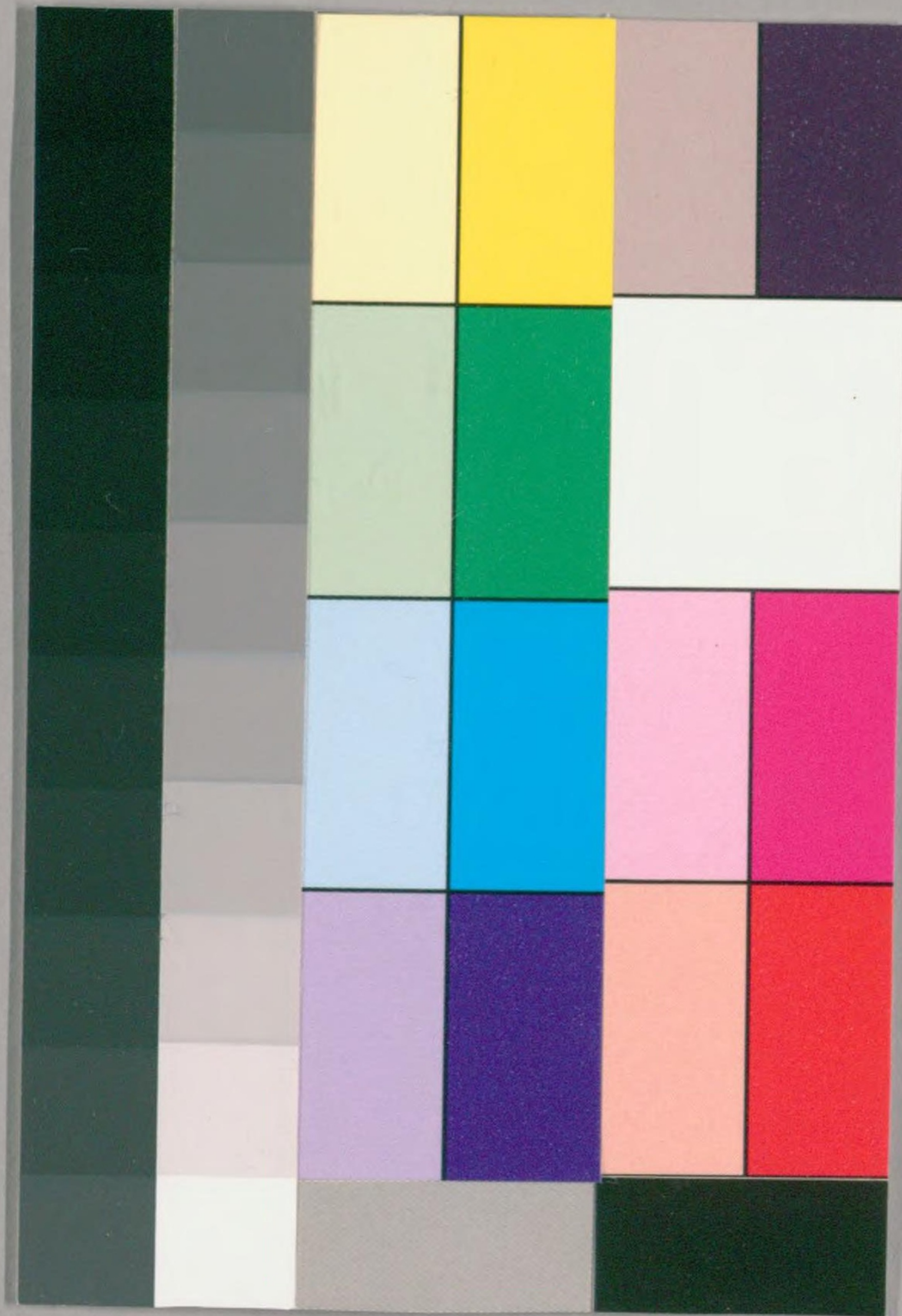
治療法

年一

全

特 1

2896



本草

大成本
佐方定著

黒川真道蔵書

白井氏蔵書

果

とし玉
全

23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48

国立国会図書館 タイトル『とし玉』 請求記号 特1-2896

ガラス使用

年玉はほかに

正月の儀式にも飾るに神のあはれむ

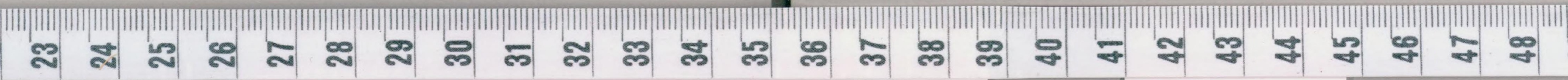
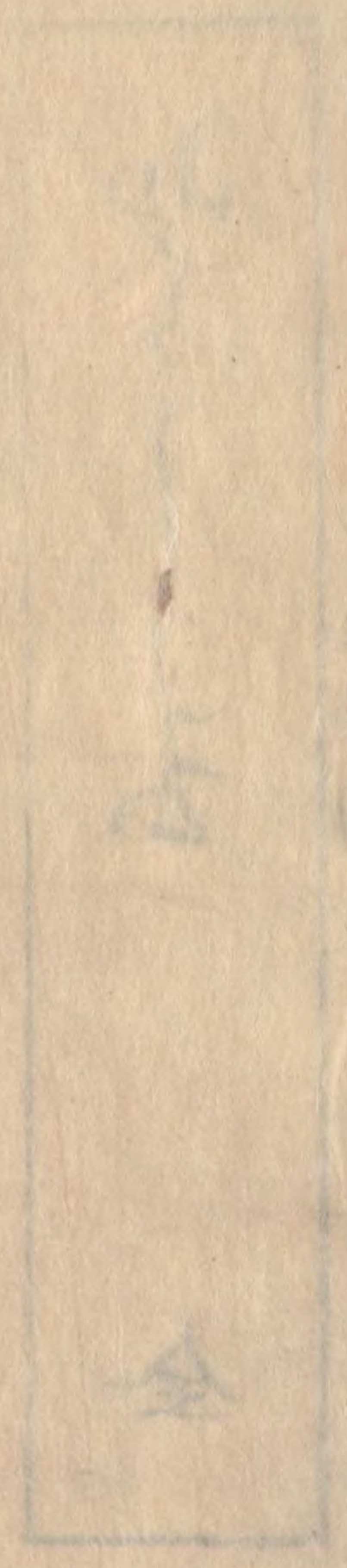
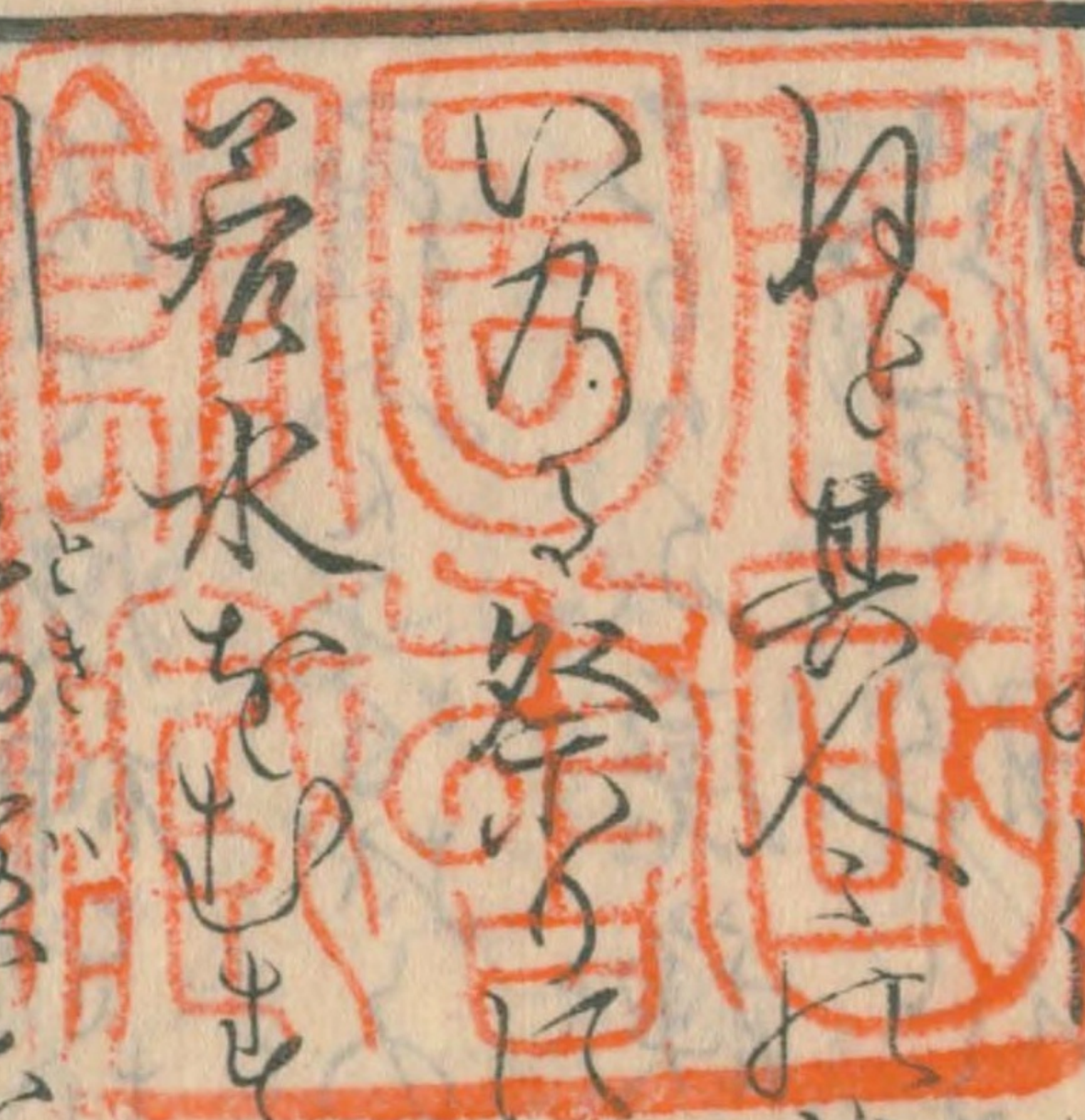
月も其人のしるべき命長かき

いかに祭りにてかへ代もたつた

若水もしるべきとてたれは

了て常態をとり来し福を以て

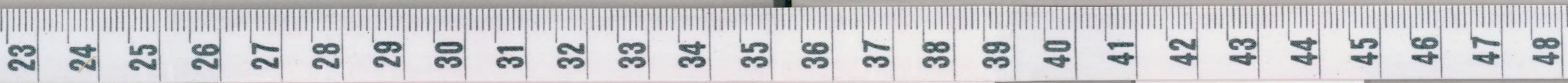
玉流乃ゆかに来たりけり



衆に疾を^とす^と智^ちし^し来^来は^は多^多れ^れし^し廢^廢換^換を^を
 汲^くて^て疲^疲神^神を^をた^たら^らる^る活^活薬^薬を^をた^たら^らる^る煩^煩の^の大^大人^人を^をや
 死^死ふ^ふる^る皆^皆其^其の^の為^為に^にた^たら^らる^るや^やく^くて^て冬
 ち^ちの^のふ^ふ廢^廢換^換を^をい^いは^はる^る春^春來^來り^りて^て活^活薬^薬を^を壽^壽を^を
 凡^凡俗^俗に^に形^形を^を抽^抽け^けら^られ^れて^て親^親一^一ま^まな^なり^りて^て
 う^うせ^せま^まか^から^らる^る及^及が^がり^り故^故今^今醫^醫師^師に^にま^まし^し思^思て^て
 薬^薬を^をま^また^たら^らる^る卒^卒病^病ふ^ふる^る自^自治^治め^めて^てう^うせ^せま^まら^らる^る

特 1
 2896

ち^ちの^のせ^せけ^けら^らる^るし^しと^とむ^むら^らる^る毎^毎年^年ふ^ふ様^様木^木に^には
 け^けし^して^て地^地乃^乃も^もあ^あら^らる^るた^たら^らる^る天^天の^の下^下に^に人^人と^と
 ち^ちの^の久^久病^病を^を命^命永^永く^く百^百歳^歳の^の世^世に^に生^生か^から^らる^る
 八^八代^代色^色に^に鶴^鶴城^城の^のあ^あら^らる^る藤^藤原^原方^方定^定
 天^天保^保十^十一^一年^年の^のむ^むね^ねは^はし^しの^の大^大に^には^はら^ら
 五^五代^代田^田大^大城^城乃^乃も^もあ^あら^らる^る久^久松^松む^むら^ら松^松若^若松^松を^を
 め^め傳^傳ふ^ふた^たら^らる^るた^たら^らる^るた^たら^らる^るた^たら^らる^るた^たら^らる^るた^たら^らる^る



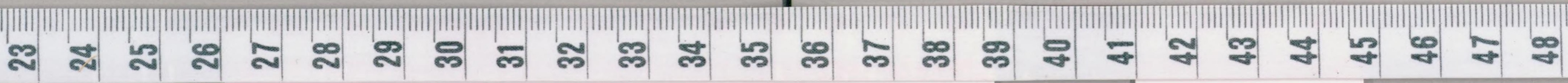
中を一寸とすり十をあらせて一尺とするあり小児も老人も長く
 てもみくももそれを一尺ありすゆる時冬のひもむかひの
 一尺あり



五の美

疝氣すんぞくの灸傳せきき

男女もせんききすんぞくををらけりこ
 あしつひきつらなごすにまの
 なうむびのうらめさきぢのまんあう
 二回又火もなるまで毎日まいまい
 一日おきよ灸せきせめなる



一 夫上古より名醫たちの経験おぼろ
ある秘灸をてこれを用て妙あれ人小
傳るたりす急てこれおぼろ

寅乃妻

夫上古より名醫たちの経験おぼろ
ある秘灸をてこれを用て妙あれ人小
傳るたりす急てこれおぼろ

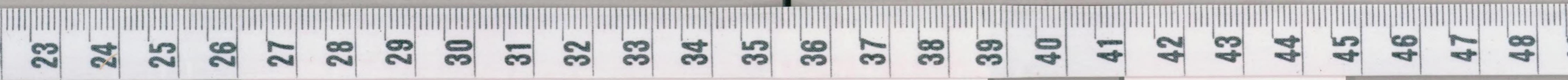
長壽の傳

長壽せんとして養生の法種々あり凡俗もむつらき
のゝあれども容易為やとき法何れそ古人の一日は二度
づつ食むるに際ふべしかくすれば無病して長命あり
こそ皇國の方こそ古書にも今やんごとくわき
清ありても二度め此食ハ別物あり扶持をあつても
き人か玄米五合ハ二度食ふ法を我れを初より知れども
用ざりし故ありて左の姫を逢てその法を下文の如く
あるをゆて感歎して後法を學ぶた身體健あれ人小
示しかつて仙女の略傳を記し於此のハ別な委くしふべし



歳五

〇五



出羽國飽海郡酒田湊臺町次郎助後室

はや女百十六歳 肖像

此老女廿餘の比病ありて

醫術ある一かく人の

教をうけて四時と七

時とふらひておひ入て

食ふるるありあまづぐく

人の鍼線を助て子に寐寅

おき酒餅を二三杯四五切み限りうとぞ

至時脈を診ふ疾あり即若年の時病あるふ善きしてかく長命せし

我達一時的に去る天保八酉の年ありき



卯の妻

養生傳

皇國古人萬國に勝れて百歳有餘まで壽を外國に羨し

別むむやきさふあづげり神代より有来のまふせ也今人天き

是に反故也る精神と飲食もあづ精神ハ欲を少く奢り

奢り心穩し食ハ濃淡偏らむ左の如くせむ

食製

炊飲する米を煮糊を洗より蒸ありて貴御あつりの法にて

庶人の難くは易法ありて常の水かびんは米を鍋に入煮立ると時

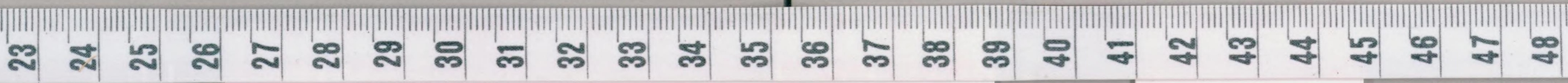
左手小鉤を握り右手は蓋を折へ其粘精をきぼりつくし薪を去り

燼おきして蒸むせ也是略えんりやあれども上の法ほりは同おな今も邊國へんこくの常習つねして即言すなはち
 遺のこれる也且かつ食事じしハ去春しゆしゆ示しせ。如ごとく一日いちにち三度さんどよせど二度にどふきど一年いちねん半はん
 あぬ味あじ噌そう糠ぬか漬づけ食くべし是皆これみな長生ながいきの古傳ふるでん也都會とくわい人ひと古製ふるせいの如ごとせす
 故ゆゑは痰留たんりゅう飲癩いんらん積聚せきく奇疾きしつ宿病しゆくびやう多おほく田間でんかん人ひと其病そのびやう少すくく悟さとべし米糊まいこ糠ぬか
 腴あつ新味しんあじ曾醴そうれいの如ごとき液えきこの三毒さんどく日ひ々々三度さんどのるあれが蓋ふた玉たま田でんて病びやうと膿うみ々々膏こう
 梁酒りやうしゆ色いろの變かはりも夥おほく謹いんべし其他その他身軀しんきうと運動うんどうが良よく人の知ちが如ごとく但粗食ぞしき
 鹽しんとまくなぐし藥やくと用氣ようきと吸形しつがたを煉等れんどう道家たうかの癖くせは返かへべし却かへて
 害がいとあるるあり猶なほ是こゝろ別べつ小委せうゐくりふを

辰のそと

頭痛を治す傳

男女なんにょとも持病ぢびやうとあり日ひ々々頭痛づうとうするもの毎朝まいあさくくその水みづを鹽しんふ
 いき手巾てぬぐひをまみもち頭かぶをうちあつり身み體たい寒さむさるるど冷ひやきべし
 さてつらうおくれは頭熱づかうねつを冷水れいすゐ温あたたくするものあればぬるみたふさ
 かへるくもさるるまでくくまへし今いままで痛いたふたぐふしまらび
 たるもたちまち治おとる也これ上古いんこの傳でんして我われあする經驗けんげんあれ何なに證しやう
 ようづる頭痛づうとうも皆みなくくひあく用もちべし膏こうつくるに妨さまたあは
 五味ごみ液えきも束髮さくさつへ膏こうを附つけりし却かへて髪かみうつくくあるなり
 但たゞかききハつらうして功こうありおもさるる一二度いちにどしてよきもあれど少すく
 して治おとらるる數月かずげつ用もちてよしたる證しやうの難治なんぢやうも一年いちねんも二歳ふたさいも怠たせ



人ふ示さなり

まゝ日腫みあんとするは肩并^{かた}脚^{あし}の何よりより血をとりて
よまの俗人も知れどつよき時ハ刃ものたるぬものあれば
陶器を破てそのとぐりつるところまできればききりなり
その何とぞびんをよぶ水をしれ高くあげて瀧のめく
みしてやうくまでかけ

かひらひのたもハ横のまをみかたごんうまのどけかきむ

弘化三年

午のたも

方

癩疽の妙薬

手足一の指をささくされおひく外の指よりつるをささくそ
とつひその上の肉までくされこむをだつそとりふくすりも
きくもえくさつひ死るもあやうあるものこもみ栗の
いが十ホ水一升入七合はせんがからをすてその汁は毎日
三四度づつその指をささくくつひ死すづー腐口より
悪液いでつとあくおびくあたる事疑ふ一〇のこも
なきたどの指をささくくたぐたきみ右のどくくはささく
るちまぢ治るおもきいたるつむくつむくつむくすに
うむあり針を膿をとりて後もしひこせばよくある

大同三年

平城天皇二人の名醫不勅して撰じせ給ひ大同類聚方
といふ書に吉田連古麻呂といひ一人の傳ちる名方
ありとあるをせ給ひ我おおく功を得たり

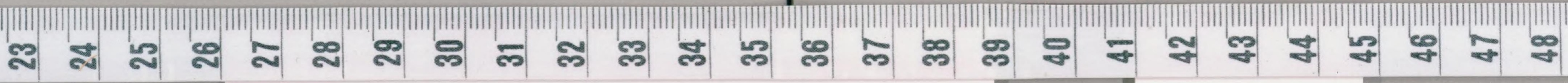
但しその書ありといひて世は板本あれども偽
本あり我の延喜年中寫の正本を所蔵せり
尊信て用べし

嘉永二年正月

生涯壯健傳

子うまれて七日の内乳をふまきりて飲すれば胎毒下りつきて瘡疹かるく幸
ある免ま腹痛癩なき生涯壯健あり然らざれば長とあるに多しび勞疝
積留飲中風その外い多くの病とある也日本人かやうに稀あり深義ありて神代
より習ある不都いつとなく亡てあつまふ今も親腹七日と云て眼前傳られ
まれ不其人ありてけいけいぬ事とて諫止るやふなうたり我子等を初め経験
多ければ世人愛し溺てる用ぬ知つと思ふ事の切あれ黙止がとて人ふすむ也
麻久理藥方 鷓鴣菜分 甘草分 苦棟皮分 蒲黄分 大黃分
水つゆの茶をんよ一を入七かめせや冷ぬやうふせんよて置夜は寐すの
人をつけおきてたをむのませ五日め六日めふふりたる見やせとあつて
こちもかふおちるべしぞ実いせむふあむ毒を身あつくもれたるが

歳三 〇二二 上巻二二カ



此の法世に普く弘く天下の児をて痘す
こゝを斷志めむさて今種痘といふものなりて幸ひ無
事あるもあれど落加かく真の痘して死ぬるも年
をて又するも有りて定律ありたふ十人死ても自然
の天命あり種て一児も死なば人の善き事にて手を
おろして殺すよおち心を得るべし

千五百年の六日の日曜日を以て本歳は天の命に依りて
痘を以てて人々の善き事にて殺すよおち心を得るべし

痢病を治傳

痢病老若男女寒熱虚實大便赤白に拘む左の如くすれば
痛たちまち小和ぎ大便度數おひつて本便となり治事神變
ふぎの神方あれば人小ちある也

古名

ちまうち草

乍直る故の名

現の證據

野かへり

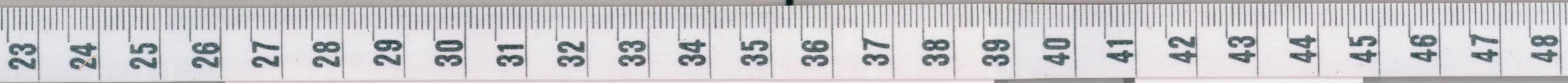
野へりかへり云心

漢名

牛扁

又

鬪牛兒

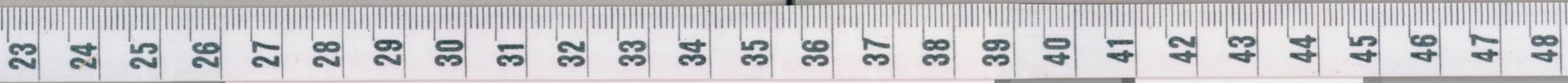


きう小玉子あくハ。牡蛎の粉をうり。疵口よりありかけ。その上より。手をつけておさへおけハ。よく血止る也。其後玉子とあせをもべし。さればこの方血とあむりも妙あり。世の金瘡治療むつうきまこと。おもふ人ハ。浅をかきそらふべし。神代の方まで。大同類聚方にもある。我もつねふ。用て妙あれハ。人よ示也。

金瘡の治法
 崩玉の治法

湯火傷治傳

やけどハ直は冷水よりひりく痛のやむまで。ひや極バ。そのき治ると。前よつるへ。如くせず。たれ。桃葉珊瑚の葉を。手一束。炒水綿の袋よか。つめ入。胡麻油一合に。えき。中よ入。き。ありて。箸よその袋をつき。に。カリ。黒やきのせ。ふ。あ。こき。袋をすて。よき。丹五十め。を。いれ。手をお。か。か。あ。あ。か。い。時。白蠟五十。又。か。か。煮。汁。水の中。少。た。堅。と。や。う。の。間。程。よ。き。膏。ふ。あ。試。て。火。より。お。ろ。ち。た。ひ。水。を。汲。お。き。その。水。の中。に。その。膏。を。入。物。の中。ひ。び。せ。膏。と。あ。る。を。紙。綿。を。ふ。つ。日。小。二。三。度。つ。ま。う。改。め。う。つ。く。直。る。也。



葉をいりて、あまゝ水けあり、油の中にて、ちりくもせざる
為あり、かねて乾しおけ、いりる不及、黄柏手四半つらゝむ
きざし、同く袋に入者、殊ふより、軍陣甚急あるとき
葉をあがり、手にてよくもみ、やろろろみ、つけおきて、この
膏をくらふべし、勿論神方也、可尊、萬一蠟あき時、びんつけ
油、丹多ハ石灰牡蛎粉を用へ、但し石炭牡蛎あふ、丹の四分一
の分量はまじへ、又金瘡諸瘡にも妙なり。

安政二年

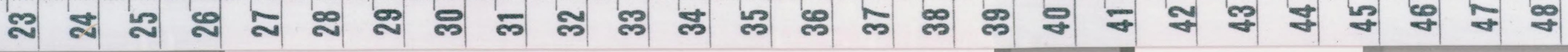
卯の妻

喉痺治傳

喉痺を飲食とわす死あんとする、野蒜の根くら
やき粉、みそ左の如きれ、直ふより、勿論からき、風毒
あてられ、ハ、ち治る也、又、項、赤、くら焼もより、
野蒜玉やき、た、く、

上古の方、神符満の家、代々傳て、我平日
用て、經驗おろく、疑、た、れ、

本



本

「こゝ粉
葉をまき
あり」

末

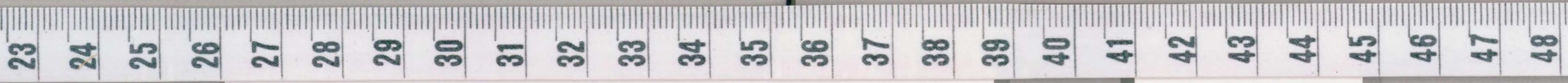
ほそき竹。或ハふとまき筆管を。図の如く
おそきぎよ切。其切口は黒焼をたらふ。と
のせ。こゝをぬき。きつら。本の方を
口よこしく息よつろく。カを入咽の極丹か
二三度も。ふきこむア。

佐藤民助 風毒
神符満 伝

安政三辰のまゝ

墮撲折傷治傳

つぎも。牡蠣粉。麩粉。等分あり。やろ。酢を。ぬる
べし。ちぢり。ぬき。ハ痛去。後。わろ。破れ。創
ゆるハ。そのま。但し。入。よ。う。り。て。ハ。液。か。り。と。て。直。る。る。り。
も。山。野。も。て。右。品。ち。ろ。ハ。其。處。よ。ほ。り。あ。小。草。
何。も。も。三。種。石。も。て。つ。ま。た。ら。う。痛。所。創。只。
附。る。



右得易とらやき薬くすりちりとて軽うろしめ侮あやまるぶるる也。
 上古の神方かみかたりて經驗きんげんううるる也。

己の春

佐藤民之助

神符満

貯

鶴城佐藤先生蔵板目録

各書或校正或註釈將刻之 門人等識

大同類聚方

典茶頭阿倍朝臣貞貞
侍医出雲宿禰廣貞等

奉勅同撰 百卷 附録 三卷

流布印本、偽書トハ大ニ異ニシ延喜廿年古寫本ニ延長寛仁年中ニ原本ヲ校合シ註釈ニシテ
 名希代珍書医家宝典トシ勿論万葉古事記六國史其他古書ヲヨムニ補助大益アリ序ハ
 撰者ニ君ノ文ナリ後ニ大医深江輔仁先生附録ヲシテ神医丹波康頼大人跋ヲ如ラレタリ

掌中要方

神方ヲ集撰シ脉論方法治術ニ簡便親切也延喜十八年
 深江輔仁此書ヲ撰ト日本紀畧本朝書籍目錄其他古書ニミエ

一卷

藥製秘方

興善ニ其祖和氣清實君ノ藥製秘訣ヲ天延元年
 和氣致頼朝臣其族成子ニ授與スルヲ記ス

一卷

神醫方

深江輔仁朝臣撰

殘缺

三卷 奇疾草子

後鳥羽天皇勅成也延喜
 土佐光長書後蓮法師ナリ

二卷

避鬼草

脉論方術整然ト病狀ニ
 的實也撰者未詳

馬医草紙

後鳥羽天皇勅成也延喜
 土佐光長書後蓮法師ナリ

二卷

神道奇靈傳

後鳥羽天皇頂下毛國神医
 槽尾録法眼遺方也

二卷

三好流金瘡秘傳

室原殿執事
 一家法ナリ

一卷

楠公金瘡秘傳

四天王寺ニ
 傳ハリシ也

一卷

和名傳

丹波長平朝臣撰

二冊

畠山流金瘡秘傳

同

上代藥方類書

撰者未詳

一卷

靈蘭集

菅領細川勝元朝臣撰也今缺一卷アリ
 金瘡治術名医ホシ脉論ヲナス

炙炳鹽土傳

上古リ傳來セル名家民間
 灸法ニ宅意安ト云々集シ也

二卷

蔵反目録

奇魂	神代ヨリ一定医法傳來セ ル大道ヲ論シタルリ 初篇 刻成	二冊	八千種	漢蘭其功ヲ未知 品ヲ主ト撰録セラレタリ	卷數未定
幸魂	病門ヲタテ茶方ヲ 集撰セシタリ	三冊	華夷班斷	陸奥ノ蝦夷ノ 一、明弁ナリ	一卷
術魂	刺術灸法并ニ難頑病 ノ治術ヲ示サレタリ		多賀城跡偽碑弁		一卷
青白二幣考	一名 楮木考	一卷	醫語拾遺		卷數不限
御藥考	屠蘇ノ弁也	一卷	正七月祭靈考		一卷
長生神傳	養生タマハクナレ 得ルヘク示タレ也	一卷	よろひの袖	医ナラモ人ノ自ニ金瘡 ヲ治シ得ル術ヲ示也	同
とし玉	医茶ナキニ急病雜病ナド 俗家口ヘテテ春毎ニ示サレタリ	一冊	神傳脈論		一卷
神傳腹證論		一卷	陸奥略志		卷數未定
日本紀活解		廿冊	あすなわらふ	隨筆也	同

發行書肆

江戸銀甲十軒店
京中五賣油小路西
浪華北太郎町北邊側
永樂屋 菱屋 東四郎
菱屋 正治 兵衛
河内屋 喜兵衛

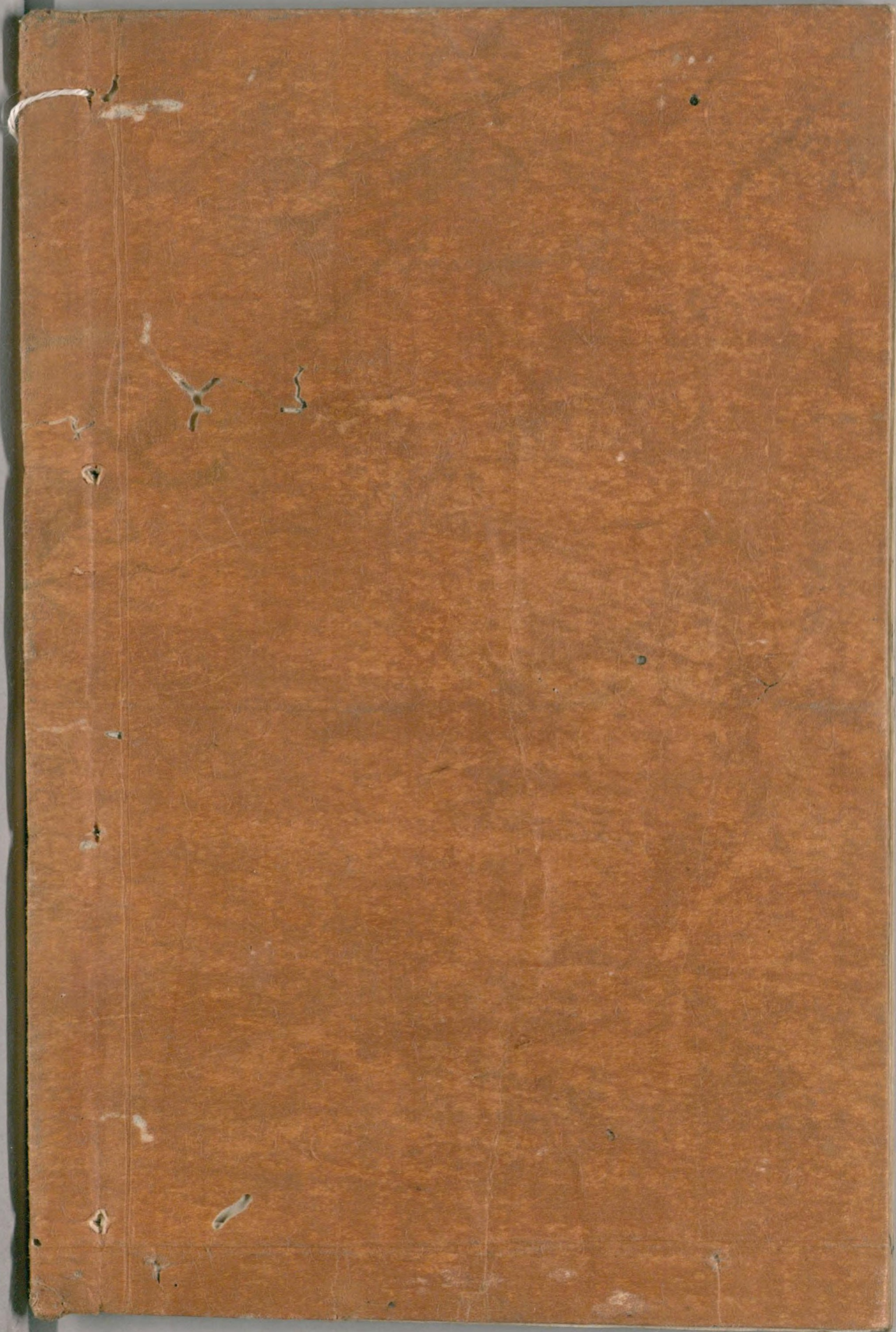
特 1

2896

23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48

国立国会図書館 タイトル『とし玉』 請求記号 特1-2896

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『とし玉』 請求記号 特1-2896

ガラス使用